



令和 7 年度 多様な主体間における連携・協働による『避難生活支援・防災人材育成
エコシステム』構築の具体化に向けた検討会」

避難生活支援コーディネーター研修 について



令和6年度からの避難生活支援コーディネーターの人材イメージ、育成等について検討を進めている。

資料 3－2 のとおり、コーディネーター育成の目的等に関する事項をまとめた。

1. 避難生活支援コーディネーターのイメージ
2. 避難生活支援コーディネーターの活動
3. 避難生活支援コーディネーターの選出
4. 避難生活支援コーディネーター人材育成方法



	リーダー／サポーター	コーディネーター	専門アドバイザー
災害ボランティア 人材のモデル	一つの避難所において、応援職員、住民代表等と連携し、避難生活の環境向上に率先して取り組むことができる人材	自らの経験とスキルを活かして、一つの避難所に常駐又は複数避難所を巡回し、応援職員、各種専門職チーム、市町の避難所担当職員等と連携し、避難生活の環境向上に取り組むことができる人材	被災地に派遣される専門職チームの一員又は地元の専門職として、ボランティアや応援職員と連携しながら、諸課題の解決に取り組むことができる人材
求められる 人材像	- 避難所運営等について、改善点を自ら見出し、実践していける存在 - 性別等の多様性の観点を考慮し、一つの避難所に複数いることが望ましい ※コーディネーター、専門アドバイザーと連携した活動を想定	- 日常的に、防災・被災地支援のみならず、男女共同参画、福祉など専門的なスキルを活かした活動をしていることが望ましい - 避難所にこだわらず、在宅避難者支援なども含む避難生活支援全般に関わる（状況にあわせて、1つの避難所に特化する場合もあれば、複数の避難所を巡回する場合も想定）	- 避難生活支援の環境改善のために、医療・保健・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言ができる人材を想定（安定して人材を拠出できる組織に所属） - リーダー/サポーター、コーディネーターそれぞれの役割を理解して、必要に応じて連携して活動を展開することを想定
選出方法	- 研修開催自治体において、避難所設置・運営に関わる住民のほか、防災に関わらず、地域活動に関わる多様な主体を想定（住民、ボランティア、NPO、企業、大学生など） - 公募・個別打診して、研修参加を呼びかける	- リーダー/サポーターからのスパイラルアップ、内閣府会議委員からの推薦によって選出する想定。 - また、リーダー/サポーター研修講師を担うほかスキルアップ研修の受講を想定	- 専門職などを対象に、特定の研修プログラムを提供し、受講した方に名称を付与する想定。 - 日赤救護班・DHEAT・DWAT等の登録者と、コーディネーターは平時からの情報交換等を通じて相互理解の醸成が図れることが望ましい

1. 避難生活支援コーディネーターの人材イメージ



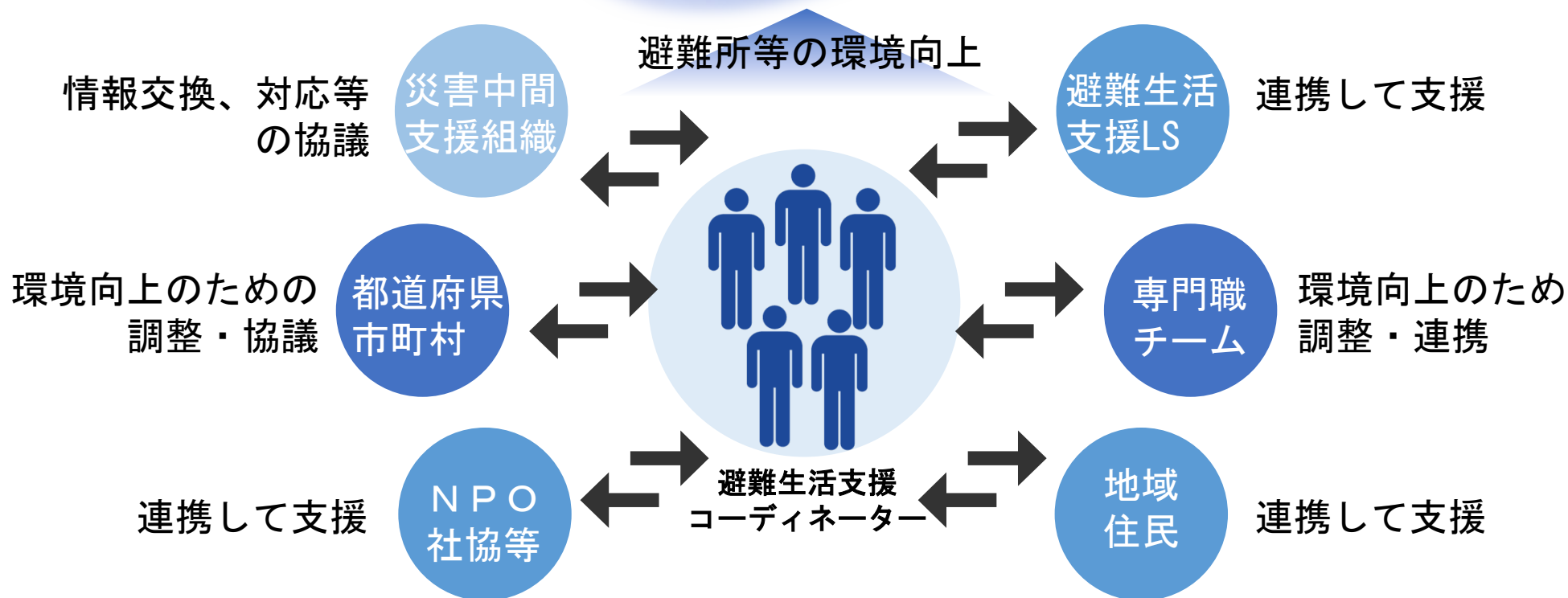
【課題】

中長期化する避難所において、

- 運営体制が整っていない
- 各種支援もばらつきがあり、必要な支援が届けられていない

【ねらい】

- 自らの経験とスキルを活かし、自治体・専門職チーム、NPO、災害中間支援組織、地域住民等と連携して、避難生活の環境向上に取り組む



2. 避難生活支援コーディネーターの活動



- 活動期間：避難所の長期化が想定される場合、災害発生2週間後から避難所が閉鎖されるまで
- 活動エリア：避難所1ヶ所～複数を基本に、状況に応じて在宅被災地域を対象とする

【活動の原則】

- **自立した活動**（被災地・被災者に負担をかけないよう自己完結を図る）
- **チームワークの発揮**（それぞれの強みを活かせるようコミュニケーションを図る）
- **関係者との連携**（関係機関との情報共有、強みを活かした活動ができるよう調整を図る）
- **被災者の自立を促進**（被災者が自らの持っている力を活かすことを意識した支援の展開）

【想定される活動例】

- ・ 避難所アセスメント：支援活動を展開するために必要なチェックリストを活用
- ・ 避難所のニーズ把握：被災者とのコミュニケーションを通じた対応
- ・ 避難所の運営支援（環境・運用等の改善等）
- ・ 在宅避難者の生活支援（物資等の支援、見守り）
- ・ 相談支援（適切な情報提供、サービス等へのつなぎ）
- ・ 支援調整（被災者のニーズにあわせて適切な支援が行えるよう関係機関との調整）

3. 避難生活支援コーディネーターの選出

選出	多様な主体間における連携・協働による『避難生活支援・防災人材育成エコシステム』構築の具体化に向けた検討会委員からの推薦			
人物像	- 被災地支援（避難所運営を含む）の経験を有する - 日常的に、防災・被災地支援のみならず、男女共同参画、福祉など専門的なスキルを活かした活動に従事 - 研修講師、被災地支援活動が可能であること			
選出過程（スパイラルアップ）	LSモデル研修の受講	スキルアップ 研修の受講 LS研修講師 養成研修の受講	LS研修アシスタント講師の経験	被災地OJT派遣
	【1回以上】	【全プログラム受講】	【2年以上の経験】	【1回以上】
支弁	➤ 旅費交通費・日当	➤ 旅費交通費・日当	➤ 旅費交通費・報酬	➤ 旅費交通費・報酬
選出方法	研修の全過程を修了した候補生について、講師陣・検討委員による議論を経た上で、コーディネーターに選定するのでよいのではないか。			

4. コーディネーターの人材育成方法

【構成】

【目的・ねらい】

【達成目標】

オンデマンド
講義
(基礎研修)

基本的な役割の理解
支援に有用な知識の習得

- ・ 自らで考え、柔軟に対応できるための必要な動機づけ、基本的な姿勢の獲得、最低限の知識情報を持っていること、もしくはそこへのつながり方を知っている
- ・ チームで活動することの有用性を理解している

演習
(実践研修)

基本姿勢の理解
支援スキルの向上
チームビルディング

- ・ 与えられた課題に対して、具体的な対応とその手順を考えることができる
- ・ チームのメンバーそれぞれの強みや特徴を理解して、それぞれの強みを活かしあい、補完しあうことができる

被災地
OJT派遣

災害現場の実態理解
柔軟な対応力の習得
実践・質の向上

- ・ 現場の状況にあわせて、具体的な対応を考えて、実践する
- ・ チームのメンバーや被災地の関係者と協力した取組ができる

カリキュラム

- ① 基本的な知識を習得するための**オンデマンド講座**
- ② 基本的な考え方・共通理念の理解や受講者同士の相互理解を深めるための**集合型研修**
- ③ 基本的な理念、習得した知識・技術等の実践経験のため、**被災地OJT派遣**を行う

①オンデマンド講座概要

- ・ 専用サイトでの閲覧（受講者にID・パスワード付与）
- ・ 1講座20～30分程度の動画・参考資料を提供
- ・ 講座ごとにレポートを提出することを想定

②演習概要

- ・ 令和7年度2回実施（同じプログラム／都合がつく日程に参加）
- ・ 1回あたり2日間、東京都内での開催を想定
- ・ 座学、演習（ワークショップ）を受講後、レポートを提出

③被災地OJT派遣概要

- ・ 令和7年度の災害の状況にあわせて実施
- ・ 被災地のニーズ等を踏まえて派遣や活動内容などを検討、実施する